

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 図書館運営費（経常）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,031 千円 (前年度予算額：5,031 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,031	0	0	0	0	0	0	0	5,031
要求額	5,031	0	0	273	0	0	0	0	4,758
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

大学院大学にふさわしい水準の図書資料整備により、教員学生の調査研究および教育を支え、本学設置の目的の達成に寄与する。

(2) 事業内容

円滑な図書館運営のため必要な消耗品の購入、図書館システムソフトウェアの保守業務委託等を行う。また図書館間の相互協力を円滑にするため各種団体に加盟し、研修による職員のレベルアップと利用者の利便を図る。

教員学生の調査研究のため、最新の図書・視聴覚資料、内外の新聞・雑誌を購入し提供する。また博士論文公開のための機関リポジトリを維持する。

図書館システムを安定して運用するため、図書館システムの保守契約を結ぶ。

(3) 県負担・補助率の考え方

県が設置する大学の図書館の運営であるため、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	63	国立情報学研究所研修参加旅費
消耗品費	3,895	和洋図書・雑誌購入費、図書館運営消耗品費
委託料	550	図書館管理ソフト保守委託料
使用料	259	データベース使用料等
備品購入費	200	視聴覚資料購入費
負担金	64	日本図書館協会会費等
合計	5,031	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

公立大学図書館

- ・平均経常経費（資料費以外） 14,294千円
 - ・平均資料費（図書のみ） 5,159千円
- （日本図書館協会調べ 令和3年度決算）

(2) 後年度の財政負担

円滑な図書館運営のために必要な現在の額を維持する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

大学院大学にふさわしい水準の図書資料整備により、教員・学生の調査研究および教育を支える。

図書館システム運用のためにシステム保守をおこない、安定したサービスを提供する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R3年度 実績	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
①図書受入累計冊数	34969冊 (H22)	47177冊	48273冊	49100冊	50000冊	50000冊	97%
②学生1人当たり年間貸出冊数	35.36冊 (H25)	33.6冊	38.3冊	50冊	50冊	50冊	77%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 受入冊数960冊。また学生1人当たり貸出数は全国の公立大学平均（6.7冊：令和元年度実績・日本図書館協会調査）を大きく上回り、学内の研究活動に図書館が欠かせないものとなっている。</p>
令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 受入冊数984冊。また学生1人当たり貸出数は前年度を上回り、また全国の公立大学平均（3.5冊：令和2年度実績・日本図書館協会調査）をも大きく上回っている。</p> <p>指標① 目標：50,000冊 実績：47,177冊 達成率：94%</p>
令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。 受入冊数1,096冊。また学生1人当たり貸出数は前年度を上回り、また全国の公立大学平均（3.7冊：令和3年度実績・日本図書館協会調査）をも大きく上回っている。</p> <p>指標① 目標：50,000冊 実績：48,540冊 達成率：97%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>情報科学分野は技術の変化が激しく、最新の資料を教員・学生に提供する必要がある。また情報科学・芸術の分野に特化した専門図書館では県内唯一の一般県民も利用できる施設であり、サービス継続が求められている。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>学内では図書館は学習・研究に欠かせないものとして日常的に利用されている。一般県民のニーズもあり、ソフトピア地区への移転による利便性向上により、利用が増加している。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>図書館システム機器の更新により、必要性能を厳選した機器を導入し、安価な保守委託料でシステムを維持している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ感染予防対策に伴い、入館者数が減少した。令和4年度以降は回復傾向にあるが、コロナ前の水準には達していない。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 学内研究の最新情報をとらえて必要な資料を収集し、資料展示や各種広報により利用促進を図る。 学内外行事等の機会を利用して、職業上の課題や学習目的で図書館利用ニーズのある一般県民に利用情報を伝える。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	